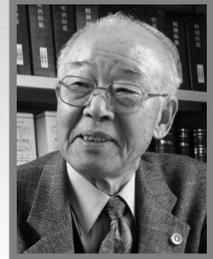


追悼



故 埜野 兪 会員 (18期)
2008年4月27日逝去・83歳
1985年度東京弁護士会副会長

自然庵庵主「埜野先生」を偲ぶ

会員 西川 茂 (18期)

「今度は庭にソテツを植えたよ、これを見てくれ」と満面に笑みを浮かべて私に郷里の家の庭の写真を示されたのは、今年2、3月頃のことであった。昔誘われて岩国の家を訪ねたときは、庭先の小山も含めて3000坪位の整地したばかりの屋敷であった。ここに自由な構想で型にはまらない自然庭園を造りたいというのが埜野さんの夢であった。何トンもある庭石を伊豆から運んで石灯籠も作り、染井吉野や白梅など沢山の庭木や花を植え、5年前には総檜銅板葺きの東屋をしつらえるなど、自力でこつこつと仕上げた自然庵の庭はほぼ完成した。

小学校時代の教え子や地元の有力者など沢山の人を、月見や花見などといって集め、酒盛りを楽しんだ。その間に日本酒道連盟というユニークな会を創設し、理事長となり各地の酒蔵を訪ね、会員と一緒に酒を賞味して来た。酒を嗜み、人生を楽しく生きる達人に段位の認定書を授与していたことは有名な話である。

何しろ賑やかなことの好きな人であった。若い人の面倒見も良かった。弁護士になる前は、奥様共々小学校の教員であったから、郷里の岩国でも東京でも沢山の教え子達が先生を慕って集まって来る。集まれば直ぐ宴会になる。

歌も出る。人にもものを教え導く才能は抜群であったが、自分自身も思う存分やりたいことをやって来た。

弁護士会の会務にも積極的に参画し、東弁、日弁連の各種委員会委員や正・副委員長はもとより東弁の副会長、関弁連の理事や日弁連の常務理事を歴任した。その間に三会合併を標榜して東弁会長にも立候補し多数の票を獲得している。さらに埜野さんは、東京家裁の調停委員なども長く務めているが、PTA関連での教育上の功績について文部大臣表彰を受けてもいる。

埜野さんは、自分の命の限界を見据えていたように思うが、それにしても享年83才は少し早すぎると言いたい。今年になってからでも、東京と岩国を度々往き来し、旧友・知己と会い、人を集めては自作の庭を自慢しながら酒を酌み交わしていたという。4月末四国高松の八十八ヶ所巡りの結願寺である大窪寺では、奥様と二人のお遍路姿の写真を残し、翌々日の朝、こよなく愛した自然庵で忽然と逝かれた。しかし、「花の下にて吾死なむ」と希っていた埜野さんとしては大満足であったであろう。

合掌